

語 研 便 り

大東文化大学 語学教育研究所広報（2022年11月）

研究発表会のお知らせ

2022年度、第3回研究発表会を下記のとおりオンラインで開催いたします。
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日 時 : 2022年11月28日(月) 午前10時30分～

参加方法 : 本発表会は学内限定でZoomを使用して開催します。
ZoomのURL、ミーティングID等は別途メールでお知らせします。
ご不明な点は、語学教育研究所までお問い合わせください。

①発表者 : 深澤 明利 先生 (外国語学部 英語学科)

題 目 : 亡命、モビリティ、カイロス
——ウラジーミル・ナボコフ自伝『記憶よ、語れ』について

②発表者 : 安藤 好恵 先生 (外国語学部 中国語学科)

題 目 : “认真(地)V”と「まじめに～する」について

③発表者 : 蘇 秋韻 先生 (語学教育研究所 特別研究員)

題 目 : 《水滸全傳》における“过”
—「到達」義を表す“过”を中心に

※概要は次ページに掲載しています。

①発表者： **深澤 明利 先生** (外国語学部 英語学科)

題 目： 亡命、モビリティ、カイロス

——ウラジーミル・ナボコフ自伝 『記憶よ、語れ』 について

概 要： 本発表では、ロシアに生まれアメリカへ亡命した多言語作家ウラジーミル・ナボコフ (1899-1977) の自伝『記憶よ、語れ』 (*Speak, Memory*, 初版 1951 年) を取り上げる。頻繁に空間を移動しつづけたこの作家が、その生涯において経験した出来事、およびそれに付随するカイロス (意味づけられた時間) を、いかに描写しているのかを考察する。そのうえで、ナボコフの作品の諸特徴を明らかにすることを目標とする。

②発表者： **安藤 好恵 先生** (外国語学部 中国語学科)

題 目：“认真(地)V”と「まじめに～する」について

概 要： 中国語の状語 (連用修飾語) は主語の後、述語の前に位置し、述語を修飾する成分である。刘月华 1989 は状語を描写性状語と非描写性状語に分け、描写性状語は更に①動作主を描写する、②動作を描写する、③目的語を指向するの 3 種類に分けられると指摘している。本発表では①と②の側面をもつ形容詞“认真”について、文中における状語成分としての働きをみていきたい。

③発表者： **蘇 秋韵 先生** (語学教育研究所 特別研究員)

題 目： 《水滸全傳》における“过”

— 「到達」義を表す“过”を中心に

概 要： 位置移動動詞“过”は現代中国語において「経過・通過」義として認識されている。一方、方言に目を転じると、主に南方方言において「到達」義としての用例が見られることも確認出来る。とすれば、“过”は通時的变化の過程で、北方方言の中から、ある時期に「到達」義を失ったとの見方が成立するのではないかと考えられよう。本発表では明代万暦年間に刊行された版本をもつ《水滸全傳》の“过”について、「到達」義での解釈が成り立つ例を取り上げ、位置移動動詞“过”の語義変遷の一端を明らかにしようとする。

以上

[問い合わせ先] 語学教育研究所 E-mail: daitogoken@gmail.com